

電力使用量の削減実感

ユーザー訪問

アイリスオーヤマ
「エナジーセーバー」

ヤマエ久野

ヤマエ工野（本社・福岡市、工藤恭三社長）は、アイリスオーヤマが提供するAI搭載空調倉エネソリューション（解決策「エナジーセーバー」）を物流センターで利用している。岡根正取締役兼常務執行役員は、「センターで使用する電力量が抑えられ、ランニングコストの削減効果を実



エナジーセーバーは空調機室内機の中に組み込んで使用する（写真は機器本体）

拠点運用コストを低減

「感じている」と話す。

ヤマエ工野は九州を中心に
食品や木材住宅資材の卸を展
開。食品は、スーパー、コン
ビニなど小売店や、飲食店向
け商品を保管する冷凍・冷蔵
・常温の3温度帯物流センタ
ーを国内53カ所運営してい
る。



「今後、空調の使用が増え、エナジーセーバーの有用性は高まる」と岡根取締役兼常務執行役員

エナジーセーバーの導入は、役員は「電力使用量を減らし、センター運営にかかる費用の抑制につなげたい」という天分支店チルド物流セン

ター(大分県)で始め、10月語へ。実際先行する大分県冷
に本格的な運用に移行。以後
各地で取り入れ、24年7月末
時点、千葉、神戸、福岡、長
崎、鹿児島を合わせた6力所
た。

丁寧な提案が
採用の決め手

トの増加が経営課題になって
ト運用までも含め、繰り返し
の増加が経営課題になって
ト運用までも含め、繰り返し
の増加が経営課題になって
ト運用までも含め、繰り返し

2023年4月に発売したアイリスオーヤマの「エナジーセーバー」は、空調の電力使用量を削減し、電気料金抑制を実現する機器だ。物流センターや倉庫の電力コスト増加に悩む企業をサポートする。

後付けで空調を最適制御

温度維持と省エネ両立



A1が空調運転を最適化し、快適さと省エネを実現する

センサに情報を伝達し、室外機のコンプレッサ（圧縮機）の運転を制御する仕組みだ。

量のうち、約8割はコンプレッサの運転に使われる。過冷却による電力負荷がかかる前にエナジ量を減らす。

運用までの基本的な流れは、最初に、運用予定日の施設で空調機、近12カ月の電力使用量、およびその使用量と効果を確認。その後、削減効果を試算した上で、機器の取り付け・設定を行い、本運用となる。導プラは3種類から選べる。エナジーセーバーの一括購入、リソースに加え、削減見込みの電気資金から使用料を支払うサフスクリプション（定額制）パックも用意しているため、さまざまな導入方法がある点が魅力だ。



担当者
か ら

今後も企業の省エネを支援する製品開発を推し進めていく。まずは、施設で使用した電力量を可視化するサービスの展開を目指す。省エネ対策の効果を一データで確認できる仕組みを提供することで、経営に役立ててもらおうと狙いだ。

エアソリューション事業部

希之氏

市場には、一般に「デマンドコントロールラー」と呼ばれる電力使用量に応じて、送風への切り換えや設定温度の自動変更といった制御を行う製品もあるが、室内温度が変化する場合もあり、デレリットがある。運転・停止を繰り返すため再稼働時に使われる電力量が大きな省エネ効果は薄い。

今夏に間に合う節電対策

エナジーセーバーは、空調機にセンサを取り付け、運転を最適化することで過度なエネルギー消費量を抑制する。一般的な空調機であれば、ユーザーを問わず後付け可能。取り付け時は、空調を一時停止させる必要があるが、「現場の出荷スケジュールに合わせた工程作成により、出荷スケジュールに合わせた」

た」とし導入から保守・メンテナンスまで一括で手掛ける全国ネットワークを評価したとする。

「今後、空調の
ジーサーバーの
と岡根取締役兼

使用が増え、エナ
有用性は高まる」
常務執行役員

れまでは常温区画で取り扱っていた食品も冷蔵対応が必要になってきた。そこで、沖縄のセーターでは全館空調を採用した。一取扱い品質の向上はもちろん、現場で働く従業員への快適な職場環境の提供も実現できた。今後も各セーターで積極的に取り組んでいきたい(同)。

が増加する見通しも示し、エナジーセーバーの有用性はさらに高まるとする。

切った。

「スピード感を持って引き続き、各センターへの導入を進める方針」(同)。同社では今後、このターボ空間の使用

ユールを遅らせることなく並行して取り付けができた」(岡根取締役兼常務執行役員)。

2カ月程度の試験期間を経過、一定の効果を確認。投資

【問い合わせ先】エアソリューション事業部 ☎022(253)7095